



## 令和3年 新年を迎えて

代表 三枝 忠生

新年明けましておめでとうございます。

昨年4月に新体制が発足しました。丁度この時期に新型コロナウイルスのパンデミックのため緊急事態宣言が政府より発令され、我々の会議、ガイドツアー等の一連の活動を中止せざるを得ませんでした。部内活動は6月から開始しましたが、ガイドツアーは9月までの休止を決めざるを得ませんでした。

この間「withコロナ」時代に対応した具体策を準備し、10月からの再開に備えました。この時期にコロナ後を見据え外国人観光客をガイドするための国際化対応準備室を設け8月から発足し早速DMO主催の英語ガイド初級講座に参加しました。この模様がNHK京都放送局から放映され注目を浴びました。

10月からの「ふれあいハイキング」は常に定員をオーバーする盛況さで、お客様の顔にはこの日を待ちに待った感があふれていました。

10月からのツアーが好評なのは①一つの班の催行人数を10名以下の少人数にし顧客とのコミュニケーションを良くしたことと3密を避けたこと。②各ガイドのスキルと顧客サービスが向上したこと。③屋内を出来るだけ避け野外を中心にしたことにより顧客が3密に対する取り組みを評価したこと。などが挙げられるとおもいます。今年はこれらのことをさらにグレードアップして行きたいと思っています。最近の我々の動きは今まで以上に注目されています。少なくとも外から見る目は我々以上に高く評価しています。

今年度は新しく8期生が入ってきます。我々の希望の星となるでしょう。

今年も、お客様には満足を、地域には貢献をしながら会員自身が楽しめるよう共に頑張りましょう。

## 京田辺の祭りと神事 十三詣り

十三詣りとは、旧暦の三月十三日（今は四月十三日）に十三歳の少年・少女が盛装して、福德・知恵・音声を授かるために、虚空蔵菩薩に参詣する事です。当日境内で十三品の菓子を買って虚空蔵菩薩に供えた後、持ち帰って家中の者に食べさせます。江戸時代の中頃から盛んになりました。京都嵐山の法輪寺の十三詣りが有名ですが、この行事は200年くらい前から行われています。御参りは、半紙に好きな文字を一字書き、本堂の内陣でご祈祷を受けます。帰り道では、折角戴いた知恵を無くさないように、渡月橋を渡り切るまで振り返らない、という習わしがあります。

特に、数え歳13歳は女性にとってはじめての厄年になるので、厄落としの意味でもありました。「本身はじめ」といって、子供の着る「四ツ身」の代わりに、「本縫ち（ほんだち）」つまり大人サイズの仕立の着物を初めて着付け、一人前の女性となります。

京田辺の虚空蔵堂は大住駅から約1.5キロほど入った山中に在り、十三詣りで知られています。「法輪山葛井寺」と号し、鎌倉時代に当地の有力者大住家友が建立したと伝えられています。

近年の開発で住宅の造成が進みましたが、虚空蔵堂は山中の大きな岩壁の下にお堂があり、隔世の趣を感じます。兵火に遭った後に建て直されたもので小じんまりとしています。



こちらの本尊が虚空蔵菩薩で、常は両讃寺に安置されており、十三詣りの際にここに運ばれます。兵火をまぬがれて今日に伝わり、嵐山よりも古いというのが里人たちの自慢になっています。

この境内の奥からさらに下に降りると、どんな晴天でも涸れることのない滝があります。春になると山ツツジの萌えるような花の中で鶯の声が聞こえ、のどかな桃源郷を味わえます。

田辺音頭にも「春はうれしや大住山の虚空蔵菩薩の桃の花、十三詣りの我子を連れて花見がてらの知恵もらい」と歌われております。（園上）

出典：田辺郷土史話 古川 昇著、広辞苑、京田辺市の神社仏閣（京田辺市観光ボランティアガイド協会編集）



## ガイド日誌

京田辺ふれあいハイク 10月16日

「里山の棚田風景と

内田城址探訪ウォーク」

秋の日差しを背中に受けて52名のお客様はJR三山木駅からけいはんなプラザに向けて出発した。12Kmを歩く。はやる心を抑えて、同志社大学をゆっくりと目指す。大学の横を流れる普賢寺川沿いは、歴史的見どころが満載の場所だ。継体天皇の筒城宮址の碑、日本最初外国蚕飼育旧跡、観音寺大御堂などだ。川べりのコスモスが華やかだ。



そして、打田の棚田を見る。稲刈りはすでに終わっていたが、高台から見る稲田はなぜか心に迫る。農耕民族の日本人のDNAに、稲穂を愛でる感情が組み込まれているのだろうか。打田の農業構造改善センターを利用させていただき、昼食だ。秋の太陽の恵みを100%堪能したくて、青空の下でお弁当を広げるお客様が大多数。午後は、内田城址がある嶽山に登る。急な階段があるが、ほぼ全員が登頂した。最後は、けいはんなプラザまでゆっくりと歩く。京田辺の自然を満喫したウォーキングだった。

(保野)

京田辺ふれあいハイク 10月24日

「京田辺の『日本書紀』を歩こう」

今年は、「日本書紀」編纂1300年という年であり、京田辺に於ける「日本書紀」の足跡を歩いていただくコースでした。

コロナ禍の中、やっと10月よりふれあいハイクが再開となり心弾む秋

晴れの朝、JR大住駅を出発しました。

月読尊・伊邪那岐尊・伊弉諾美尊を祀る月読神社では、一間社春日造りの本殿を囲む玉垣の正面に鳥居を配置する珍しい構造を見ていただき、薪小学校で発掘された堀切7号墳まで一気に歩きました。私のグループは健脚の方ばかりで歩



くのが早いこと！

昼食後、中央公民館資料室で堀切古墳より発掘された埴輪をみていただき、特に人物埴輪は、ほぼ全身が揃った貴重なイケメン像で興味深く観察されてました。

その後、神功皇后も立ち寄られたという、酒造りに縁のある酒屋神社に向かい、一間社流造の本殿を参拝し、酒屋神社を後にしました。神功皇后が池で髪を清めた「たがわずの池」、朝鮮半島に出兵する皇后の軍勢が通過する際整列したといわれる「鉾立の松」を通過し、天井川を歩き終点の京田辺駅へ。

その間、神功皇后と軍勢の足音が聞こえてくるような錯覚に。皆様はいかがでしたでしょうか。(和田)

京田辺ふれあいハイク 11月7日

「古き神社と仏さまを訪ねて

京田辺南部を歩く」

前日のニュースでは、当日朝迄京田辺は雨、午前中は4mm以上の降水を伝えていました。しかし近年脚



光を浴びている「地域リポーター情報によるウェザーニュース」では終日曇、降水0mmと報じていて、幸いその通りになり、大事な天気面で快適な歩行ができました。

最初に、ツアーの肝として標榜した仏様、壽宝寺の十一面千手千眼観音さまのお姿をありがたく拝観しました。壽宝寺入り口の横には佐牙神社の御旅所があり、毎年10月にはこちらで「湯立ての神事」「山本の百味」が行われます。また昼食場所だった佐牙神社は、南山城地域では数少ない式内社。お酒の神様として有名で、古代寺院の軒丸瓦も発見されています。竹やぶの小径も気持ちよく歩いていただきました。

参加者の方からは「個人では新型コロナの影響で見られなかった千手千眼観音がまた拝観できてよかったです。」「京田辺が歴史ある要衝の地であったということが分かりました。」などご感想もいただき、嬉しく思っています。



(桑田)

Coming Soon!



2月20日(土)

「お茶の日本遺産 飯岡の茶畑と 茶香服体験」

本企画の2つの魅力を紹介します。

**その1 茶香服体験。**茶香服は言ってみればお茶のテイスティングで、一度飲んだお茶の風味を記憶して後で飲んだお茶の中からそれをあてるゲームです。古くは中国の唐の時代に始まり宋代に日本に伝えられたといわれます。南北朝の頃から室町時代に「闘茶」と呼ばれて、京都を舞台に貴族の間に始まり、文化人の遊びとして流行しました。競技は5種5煎法で、花、鳥、風、月、客の名をつけた玉露2種、煎茶3種を同一条件（茶の量、湯の量と温度）で飲み分けます。参加者は視覚、嗅覚、味覚を駆使してお茶を判別し、より多くの正解を競うのです。もちろん、飲み分けのコツは日本茶のインストラクターが優しく伝授してくれます。

**その2 日本遺産飯岡の茶畑のハイキング。**丘陵地には覆下栽培が主な茶園が広がり、周りの水田、上部の集落といった景観が特徴の飯岡。標高67メートルの頂上から、東は井手の山々と木津川の流れ、南は奈良方面、西には甘南備山と京田辺の町、北は京都と比叡山、愛宕山を望みます。

北風の中にちょっぴり春が顔をのぞかせます。田園風景を楽しみ、お茶の世界に少し足を踏み入れてみませんか。

**雨天決行**

集合：JR三山木駅（9:40）  
解散：JR京田辺駅（14:30頃）  
参加費：300円（保険料・資料代）

コース  
JR三山木駅〈集合〉→飯岡渡し場→薬師山古墳と茶畑→中部住民センター（昼食・茶香服体験）→大徳寺→JR京田辺駅〈解散〉（歩程約8km）



3月3日(水)

「霊地 虚空蔵谷と 歴史を語る仏様」

～両讃寺に集う仏様の謎～

霊地として自然信仰の対象とされていた虚空蔵谷は、雨乞いの地として霊験あらたかだったといわれています。虚空蔵谷から先に進んだ竜王谷には、清水の湧き出るところがあり、古来から水が尽きることがありません。そしてそれは清らかな虚空蔵谷川となり、月読神社を経て大嘗料地区を流れていました。

霊地 虚空蔵谷から流れる虚空蔵谷川を横に朝廷に献上された農作物を作っていた大嘗料地区、車塚古墳、歴史を語る両讃寺の仏様、そして虚空蔵谷を歩きます。

**雨天決行**

集合：JR大住駅（9:30）  
解散：JR松井山手駅（12:30頃予定）  
参加費：600円  
（保険料・資料代・両讃寺拝観料）

コース  
JR大住駅〈集合〉→大住車塚古墳→大嘗会田伝承地（大嘗料）→両讃寺→月読神社→山神石碑→そよかせ幼稚園→虚空蔵堂・虚空蔵谷→JR松井山手駅〈解散〉（歩程約8km）

その他の行事についても、京田辺市観光ボランティアガイド協会のホームページでご確認いただけます♪

ホームページ QRコード↓



アドレスはこちら↓

<https://kyotanabe-guide-volun.jimdofree.com>

## 緑地を散策してみよう！諏訪ヶ原公園

京田辺市の樹木観察の好適地の一つに諏訪ヶ原公園があります。そこでは約50種類の樹木を堪能できます。春は新緑と花々、秋は紅葉と落葉が美しく、年間を通じて多くの人々が健康ウォークや犬の散歩、散策やジョギングなどを楽しんでおられます。大きな広場2か所を囲むように樹木が配置されており、地元と京都市内を望む大展望も見てたえがあります。この公園を代表する樹木はメタセコイアとユリノキ、さらにかつての里山に見られたケヤキ・エノキ・ムクノキ・ニレ・コナラ・クヌギ・クスノキ・カツラ・カシなどです。（石橋）



**メタセコイア** 花期2~3月  
約30本の高木が見事。1945年揚子江の奥地で発見。それまで化石しか知られていなかったの「生きた化石」として有名になった。幹はまっすぐのび、整った円錐形の樹形になる。

### ケヤキ (榎)

美しい樹形と珍しい株立ちの大木が見られる。この公園のもう一つの見どころ。もちろん新緑と紅葉も見事。

### サクラ (桜)

日本固有種ヤマザクラ・オオシマザクラにソメイヨシノ・サトザクラの4種類が見られる。花も美しいが秋の紅葉も赤みを帯び見事。

### ドングリ

どんぐりの日本固有種は22種ある。この公園のほとんどのどんぐりはシラカシ。他にコナラ、クヌギが見られる。

**注目されずとも…ひっそりと美しく咲く樹木たちもありますよ♪**

アセビ、アベリア、イロハモミジ、キョウチクトウ、キンシバイ、キンモクセイ、コデマリ、サザンカ、サルスベリ、サンゴジュ、シモツケ、シャリンバイ、ツバキ、トサミズキ、トベラ、ネズミモチ、ハナミズキ、ヒイラギナンテン、ヒュウガミズキ、ヒラドツツジ、フジ、ヤマボウシ、ヤマモモ、ユキヤナギ、レンギョウなど。



### ユリノキ (百合の樹)

花期 5月頃

北アメリカ東部原産の落葉高木。花の形からチューリップツリーの名もある。成長が早く高さは普通30~40mになる。葉が着物のハンテンをイメージさせることからハンテンボクの名がある。街路樹は剪定の為花が咲かないが、公園内では自然のまま毎年見事な花が咲く。



### アキニレ (秋楡) 花期 9月頃

秋に花が咲くのでアキニレという。この公園にアキニレの大木が3本ある。20~30メートル離れており、日当たりもよいが、不思議なことにそれぞれ黄緑色・橙色・濃緑色と異なった色に紅葉する。



り、日当たりもよいが、不思議なことにそれぞれ黄緑色・橙色・濃緑色と異なった色に紅葉する。